

## 神の約束の成就 エズラ 1:1-8

1. ペルシヤの王クロスの第一年に、エレミヤにより告げられた主のことばを実現するために、主はペルシヤの王クロスの霊を奮い立たせたので、王は王国中におふれを出し、文書にして言った。(1:1)
  - a. クロスが王になる約 100 年前にエレミヤは、神の民が 70 年の捕囚期間を通らねばならないことを預言していた(エレミヤ 25:11、29:10)。これは神の命令に従わなかったこと、特に安息の規定に従わなかったことによる(歴代誌 6:21)。
  - b. 捕囚時代にエレミヤの話を聞きながら育ち、イザヤ書からクロス王に関する預言を提示した(イザヤ 44:24-28、45:1-13)のはダニエルだろうと言われている。ダニエルは捕囚が終わるように祈った忠実な者の一人であった(ダニエル 9)。
  - c. 70 年もの間神の忠実な民はエレミヤの預言が成就するその時を待っていた。私たちの人生にも約束の時がある。そして私たち一人一人に対して、約束には 3 つの段階がある。宣言の時期、発芽の時期、実現の時期である。
  - d. 神の約束の成就に 70 年間待つということを想像できるだろうか。すぐに結果が出る世の中にあつて、忍耐や信仰(忠実さ)がないため神の約束を見過ごしてしまう人もいるだろう。
  
2. 「ペルシヤの王クロスは言う。『天の神、主は、地のすべての王国を私に賜わった。この方はユダにあるエルサレムに、ご自分のために宮を建てることを私にゆだねられた。あなたがた、すべて主の民に属する者はだれでも、その神がその者とともにおられるように。その者はユダにあるエルサレムに上り、イスラエルの神、主の宮を建てるようにせよ。この方はエルサレムにおられる神である。残る者はみな、その者を援助するようにせよ。どこに寄留しているにしても、その所から、その土地の人々がエルサレムにある神の宮のために進んでささげるささげ物のほか、銀、金、財貨、家畜をもって援助せよ。』」(1:2-4)
  - a. 異邦人の王がこれほどまでにユダヤ人に好意を持ち、エルサレムに上り神殿を建てるよう命じたのは驚きである。
  - b. 約束の宣言(エレミヤ)、発芽期間(70 年の忍耐とダニエルの祈り)を経て約束が実現する時が来た。ここではクロス王はエルサレムに帰還し再建する許可を文書にして出ただけでなく、再建に必要な経済的援助もしている。
  - c. 神の約束の成就は終わりではなく、また新たな宣言、発芽、実現のパターンの始まりである。一つの約束が成就し、今度は神殿再建のプロセスが繰り返される。
  
3. そこで、ユダとベニヤミンの一族のかしらたち、祭司たち、レビ人たち、すなわち、神にその霊を奮い立たされた者はみな、エルサレムにある主の宮を建てるために上って行こうと立ち上がった。彼らの回りの人々はみな、銀の器具、金、財貨、家畜、えりすぐりの品々、そのほか進んでささげるあらゆるささげ物をもって彼らを力づけた。クロス王は、ネブカデナザルがエルサレムから持って来て、自分の神々の宮に置いていた主の宮の用具を運び出した。すなわち、ペルシヤの王クロスは宝庫係ミテレダテに命じてこれを取り出し、その数を調べさせ、それをユダの君主シェシュバツアルに渡した。(1:5-8)
  - a. エルサレムに主の宮を再建するように人々を奮い立たせたのは神の霊だと書かれている。もしかしたらこれは後に見る神殿建設に消極的だった人々に対する批判かもしれない。神の約束は神の霊によってしか理解できない。どんなに自分の力でやろうとしても、神の恵みなしでは成功しない。
  - b. 恵み、憐れみ、聖霊、約束、など神様は驚くほど多くのものを私たちに与えてくださる。ここでも神の民は周りから経済的支援を受け、盗まれたものは戻された。私たちの人生でも盗まれたりなくなつたものは神が必ず取り戻してくださる。